

帰国—中国大使館訪問にて

対外経済貿易大学学生代表

見学日時：2017年6月5日（月）14:00-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

見学概要

初めに、訪日団の程海波団長からあいさつがあり、今回の訪日における数日間の活動内容の紹介と、今回の中国大使館における交流への期待を述べられた。

その後、駐日大使夫人の汪婉参事官からあいさつがあり、その中では今回代表団の訪日に際し支援をされた関係者への感謝の言葉と、第11期の中国駐日大使就任以降(2010年以降)における日中の複雑な関係についての紹介があった。

次いで、訪日団の6大学の各学生代表者から「文化と発展」、「訪日期間における感動」、「美しく優しい日本」、「ホームステイでの感想」等のこの数日間の日本滞在を通じた感想の発表があった。

その後、汪婉参事官は訪日団の学生が提起した問題や疑問に対し丁寧な回答を行い、さらに私たちへの期待と祝福の言葉を述べられた。そして最後に皆で記念写真を撮り、中国大使館への訪問をつつがなく終えた。



なぜですか？

- (1) 尖閣諸島事件の発生の原因は、日本側が当時の日本国内の緊張を和らげるためであったかもしれない。当時日本は民主党が政権を握っており、政治的な摩擦が際立っていた。その他福島原発事故も国民のパニックを引き起こしていた。そのため日本は国内の危機の緩和のため、人々の注意力を尖閣諸島の問題に移行した可能性がある。



- (2) 2012年は日中の国交において最も緊迫した時期であった。日本が尖閣諸島を購入したことは中国国民による抗議を引き起こした。その後2014年になり、自民党が政権を握り、APECの会議期間中、習近平総書記が安倍首相と会見したことが両国関係の転換点となった。現在日中関係は比較的安定し、改善に向かっているが、未だ多くの複雑で敏感な要素が存在しており、両国関係は正に「前途多難だが前進あるのみ」という重要な時期にある。
- (3) アメリカを除き、先進諸国の中では日本の人口が最も多く、「少子化」の問題がある中でも1億2000万の人口を維持している。また日本の国土面積はイギリス、フランス、ドイツ等の先進国よりも大きい。そしてEU20数カ国と中国との貿易総額でも5000億ドル程度に過ぎない中、日中の今年の貿易総額は2700億ドル以上に達している。
- (4) 日本在住の華人・華僑は約80万人で、さらに毎年平均10万人の中国人学生が日本へ留学している。昨年、中国を訪れた日本人は200万人台に減少している。

感想

大使館でのこの日の午後は、暫しの帰国をしたような感覚であった。

大使夫人である汪婉参事官はとても上品で、彼女自身はまた東京大学において清朝末期の歴史研究をした大家であり、親しみやすい方であった。汪婉参事官からは第11期の中国駐日大使就任以降(2010年以降)における、複雑で困難な日中関係についての説明があった。説明を聞いた後多くの感想が生まれ、日中関係の友好的な発展に何らかの貢献をしていきたいと思った。統計では、90%の日本人は中国への好感がなく、しかも多くの日本人の中国への印象は過去の物資が欠乏していた時代のままとのことで、その原因としては日本のメディアによる客観性に欠けた報道がある。これはとても残念な事であり、日中両国は一衣帯水の隣国であることから、皆が客観的な態度で問題に対応しなければならず、事実に基づき説明をしていく必要がある。

汪婉参事官は訪中をする日本人の多くは公務によるもので、自発的なものはとても少ないというお話をされていた。これも日中両国間の交流不足が反映されていると思う。意思疎通によって初めて理解ができるため、交流は一際重要なものである。これには私たち若者世代が自発的に日本人の人々との交流を拡大するなど、新たな認識を開拓していく必要がある。両国間の誤解を解き、友好を促進するには政府の働きのみでは不十分である。

また汪婉参事官のお話を聞いてから、国家間の政治問題に対して新たな認識が生まれた。一部の突発的な政治問題(例えば尖閣諸島の問題)の出現の原因には多くの要素が関わっており、私たちは冷静にそうした問題への分析や判断をすべきであると思った。また同時に、国の民である私たちの行いは社会のルールや法律の求めに合致する必要がある、日本車を破壊する、日系企業の工場を焼き払うといった過激な行為はしてはならず、緊急時であるほど、国に迷惑をかけるべきではないと思った。

この他、各大学の代表学生の発言からは、幾度となく伝統文化の継承の問題が提起されていた。ある学生からは、ホームステイの際、日本の中学生の教科書には多くの中国の伝統的な詩歌が収められていたことを知ったという話があった。また私のホストファミリーの娘さんも魯迅の作品を読んでいた。また日本では座禅や茶道などを体験したが、これらは実際のところ中国から日本に伝わったものである。中国の伝統文化には多くの素晴らしさがあり、伝統文化の継承というのも、その形式により内在する精神の伝承をするということである。経済が急激に発展している現代社会において、精神の拠り所は私たちにとってより重要なものになっている。祖国における青年世代として私たちはしっかりと伝統文化を学び、中国の伝統文化の継承をしていく必要がある。